

陽明学関係書 紹介と短評

○許建平 著『李卓吾伝』

二〇〇四年三月、東方出版社刊。A5版、405頁。
章培恒復旦大学教授の序。許氏は章教授のもとで学位を取得している。本文は次に掲げる十二章より成る。

- | | |
|----------|------------|
| 第一章 商裔儒子 | 第七章 竜潭風雨 |
| 第二章 共城親情 | 第八章 声振武昌 |
| 第三章 求道両京 | 第九章 禅門縦横 |
| 第四章 徹悟姚安 | 第十章 古利秋風 |
| 第五章 托命天窩 | 第十一章 南北求索 |
| 第六章 麻城風波 | 第十二章 寧死不受容 |

これらの章のもとには、描いてある年代が入っていて、その時期が分かる。そして、このような章立てのもとに、「海疆明珠」「海商之裔」「易姓之謎」というような、小項目が立ててあり、その下に李卓吾の生涯が描かれている。描き方は、学問的堅苦しいものでなく、分かりやすい小説仕立てという感じである。それでありながら、引用文は、頁下に注記があり、出典が明記されているところに、フィクションとは違うことを主張しているようだ。参考文献欄はなく、過去の研究文献の渉獵という面は物足りないが、何はともあれ、李卓吾の伝記として面白く読めるものである。

○呉 震 著『王陽明―著述選評』

新世紀古代哲学經典読本の一冊

二〇〇四年四月、上海古籍出版社刊。A5版 218頁。

導言―王陽明の生涯と思想を、「才華初露」「庭前格竹」「竜場悟道」というようなキーワードのもとに簡明に解説している。本文は六章より成り、その章の名は次のようなもので、その章のもとに、先ず概説があり、次に項目名、そして原典とその注釈、そして解説というスタイルで書かれている。概略を述べると、

一、早期思想 概説があり、(1)五溺三變 『王陽明全集』卷三八「陽明先生墓誌銘」、同卷四一「刻文録序説」、「明儒学案」卷十一「姚江学案」というような原典よりの引用と注、そして解説である。以下(6)竜場悟道で第一章が終わるが、原典の引用に『伝習録』も多く用いられている。次いで第二章、心即理となり、以下、三、知行合一。四、致良知。五、万物一体。六、四句教で終わる。本書を繙けば、王陽明の生涯と思想を、原典の重要な部分を通して読み、理解することができ、王陽明と陽明学を啓蒙する上での恰好の書である。

○泉州学林編集部 編『泉州市李贄思想學術研討會論文集』

『泉州学林』二〇〇四増刊Ⅱ A5版、344頁。

二〇〇四年十二月、泉州社会科学界連合会刊。

蘇双碧「李贄和歷史人物評價」

郭預衡「李贄和二十一世紀」

蔡燦津「李贄、中国市民萌動之初始的思想先驅」